



緑風舎
自由空間

YUYA TSUDA

津田裕也ピアノ・リサイタル

PIANO RICITAL

MON. SEP. 24, 2018

6 : 00 P.M.

SONATE NO.3

F-F-MOLL OP.58 CT203

FREDERIC CHOPIN

FRANZ SCHUBERT

MOMENTS MUSICAUX D 780 OP.94

4 IMPROMPTUS D 899 OP.90

JOHANNES BRAHMS

3 INTERMEZZI OP.117

緑風舎音楽ホール

Today's Program

シューベルト 楽興の時 D780 Op.94

1823～28年にかけて作曲された6曲構成のピアノ曲集。1828年に作品94として出版された。「音楽の瞬間 (Moments Musicaux)」という題名が示すように、当時作曲の主流を占めていた「ソナタ」の大規模で堅固な構成とは対照的に、親しみやすく即興的な性格をもった小品である。特に日本で有名なのは、第3曲へ短調で「エールルス」(ロシア風歌曲)として有名。繰返しを除くとわずか54小節という小さな曲で、終始一貫して単純な伴奏に乗って旋律が流れる何の変哲もないように見える曲だが、愛らしく親しみやすい魅力に満ちた曲である。NHKラジオ放送「音楽の泉」のテーマ曲としてもおなじみ。ロマン派の作曲家に愛好され流行した「性格小品 (Charakterstück)」の先駆的作品と言える。

ブラームス 3つの間奏曲 Op.117

1892年に作曲したピアノ独奏曲。ブラームス自身が「私の哀しみがはいった3つの揺りかご」と評した。3曲ともブラームスの晩年の小品の特徴をそなえ、精妙な対位法的な処理が美しく、神秘的な雰囲気をつたえる。間奏曲らしく比較的テンポが遅めである。ブラームスの初期の作品はバグニニやヘンデルの主題による変奏曲に代表されるように、規模が大きくてエネルギー溢れる作風が特徴であったが、晩年になると内省的な小品を多数作曲した。いずれもかなり地味で翳りのある作品で、形式的にも比較的簡素だが、その成熟した表情にはブラームスの到達した深淵なる境地が示されている。

----- 休 憩 -----

シューベルト 即興曲 D899 Op.90-3

最晩年の1827年頃に作曲された。この頃の彼は度々体調不良に襲われており、まるで人生の残り時間を知っているかのように精力的に作品を生み出した。同時期に作曲された4つの即興曲《作品142 D935》が一つのソナタに見てられるのと異なり、それぞれが自由に彩りある個性を見せている。作曲年に第1・2曲のみ出版され、1857年に後半の2曲が出版された。表題はトビアス・ハスリンガーの出版社により与えられたものである。第3曲(アンダンテ 変ト長調 4/2拍子)は調性、拍子ともにやや特異であり、初版ではト長調、2/2拍子に変更されてしまったほどである(その後、19世紀末の全集版で原典どおりに戻された)。非常に息の長い旋律が六連符の織り成す豊かな響きによって歌われる。

ショパン ピアノソナタ 第3番 短調 Op.58

前曲《葬送行進曲付ソナタ 変ロ短調》の5年後の1844年夏に作曲され、翌年出版された本作は、E・ドゥ・ペルトウイ伯爵夫人に献呈された。本作が作曲された年の春に健康を害し、また5月に父ニコラ死去の報に触れたショパンは悲しみのあまり2週間ほど重病人となったが、ジョルジュ・サンド邸に移ることで快方に向かった。特に姉夫婦の訪問が大きな力を与えたようである。そうした中で気持ちを新たに取組んだのがこのソナタである。シューマンに「無理やりくりつけた」と評された前作とは打って変わって、有機的な形式や壮大な規模を持ち、ショパンの力強く雄大な一面を発揮した傑作である。

♫ピアノ : STEINWAY HAMBURG製



津田 裕也 Yuya Tsuda : piano

©Christine Fiedler

仙台市生まれ。2001年東京藝大入学。同年第70回日本音楽コンクール第3位。05年東京藝大を首席卒業、安宅賞、アカンサス音楽賞、同声会賞等、数々の受賞を果たし、同大学院修士課程に進む。07年第3回仙台国際音楽コンクールにて第1位、および聴衆賞、駐日フランス大使賞を受賞。仙台市より「賛辞の楯」を、宮城県より芸術選奨新人賞を授与される。同年10月よりベルリン芸術大学においてパスカル・ドヴァイヨン氏に師事し研鑽を積む。10年大学院修士課程を首席修了、併せてクロイツァー賞を受賞。11年ベルリン芸術大学を最優秀の成績で卒業、その後ドイツ国家演奏家資格を取得。同年ミュンヘン国際コンクール特別賞受賞。ソリストとして、ベルリン交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、ドイツ室内管弦楽団等と共演。日本各地でソロリサイタルを開催するほか、NHK-FM「名曲リサイタル」、仙台クラシックフェスティバル、武生国際音楽祭、木曽音楽祭などに出演。10年からはドイツ各地でもソロリサイタルを開催、地元紙にて好評を博す。simcレーベルよりソロアルバム「悲愴、さすらい人幻想曲」を発売。15年にはフォンテックより「メンデルスゾーン：ピアノ作品集」をリリースし、高く評価される。最新盤は18年7月に同レーベルよりリリースした「ショパン：後期ピアノ作品集」。室内楽活動にも積極的で、ヴァイオリニスト松山冨花とデュオを組み、ナミ・レコードより4枚のCDをリリース。また、白井圭(vn)、門脇大樹(vc)とピアノ・トリオ(Trio Accord)を結成し、東京、札幌、九州をはじめ国内各地で演奏。その他、ピーター・ウィスベルウエイ、ジェラルド・ブーレ、堀米ゆずり、前橋汀子、加藤知子、山崎伸子、コリヤ・ブラッハー、イェンス＝ペーター・マインツ、パヴェル・ゴムツィアコフなど多くの著名な弦楽器奏者と共演している。最近では管楽器奏者との共演も多く、様々な共演者から厚い信頼を得ている。これまでにパスカル・ドヴァイヨン、ガブリエル・タッキーノ、ゴールドベルク山根美代子、角野裕、渋谷るり子の各氏に、室内楽をゴールドベルク山根美代子、田中千香土、河野文昭、山崎伸子の各氏に師事。現在、東京藝術大学講師として後進の指導にも力を注いでいる。